



卓 話



「2004年関西大会記念切手発行秘」

東京江北ロータリークラブ

飯塚 悟朗氏

大阪で国際ロータリー国際大会が行われました。日本での国際大会の開催は、昭和36年、53年の東京大会に続いて3回目になります。3回目は関西地区という



ことで京都も近いこともあり、外国人の登録者が多く見込まれておりました。

国際大会の開催時は国際大会を周知するため、記念切手を発行することが多く、過去2回の東京大会でも切手が発行されていたので、今回も主開催地の大阪府から切手発行の申請がなされました。当時大会委員長の千玄室氏は、衆議院議員野中広務氏に発行のサイドブッシュを依頼していました。更に元郵政大臣にも依頼し、万全と思われておりました。お二人の推薦状と申請者、申請内容では全然問題ない案件とっておりましたところ、切手の発行決定時に衆議院議員選挙と府知事選がありました。

その結果、野中氏は政界を引退、元郵政大臣は落選、大阪府の太田房江知事は自分の選挙で忙しく、申請後のフォローはされませんでした。そのような事情から、切手の発行は行わない事が郵政公社の審議委員会で決定しました。この情報は大阪の関西大会実行委員会から入りました。

正月すぎにリカバリー出来るか出来ないかを分析しました。残り時間はすでに5ヶ月を切り、申請、許可、デザイン、印刷どれを考えても出てくる答えは時間不足でした。大阪府からの再申請、文部科学省からの申請も考えましたが、どれをとっても時間不足です。

やはり話をトップから下ろす方法が一番の時間不足の解決と考え、すぐ実行に移しました。高橋副総裁がトップとしての権限をお持ちということが判りました。又東京RCに郵政公社の生田総裁が会員として在籍しておられる事も判りましたので、早速東京RCの若井会長に事情をお話して、生田さんを紹介し

ていただきたいとお願いしました。2004年1月14日東京RCの例会で国際大会の切手発行の「要望書」を生田総裁に手渡ししました。

その結果、郵政公社はトップダウンで検討し、一週間後、1月21日の報道発表で近畿郵政から「ふるさと切手」として発行することが公表されました。お願いしてから一週間後のことでした。

切手の発行が決まりまして、国際大会実行委員会から私に「国際大会実行委員」の委嘱状ができました。切手が発行されることにより、郵政公社は大阪府にも顔が立ったと思います。

デザイン、色調、シート構成、印刷等全てに参画し、民間人の私の意見も取り入れて頂きまして、大変満足しています。切手はグラビア5色、5月の季の花「あやめとロータリーエンブレム」が描かれております。1200万枚の切手が発行されましたが、ロータリアンの方々が記念に買われたり、会社で買われたり、ロータリー事務局が通信用に買われたりと全て売り切れました。

関西大会は45,381人の大会参加者があり国際大会の参加者の新記録です。因みに2位は1978年の東京大会39,834人、3位は2005年シカゴ大会39,460人、4位は1989年ソウル大会38,878人です。

更に、ロータリー100年を祝う切手の発行が世界中で計画されました。RI本部からも強い要請があり、日本でも具体的に推進することになりました。ロータリー日本財団・岩井敏理事長（2750地区DPG）が、外務省を窓口として、日本郵政公社に働きかけることになりました。関西大会の切手発行の経験を買われて委嘱状を頂きました。詳細は時間の関係で省略しますが、ロータリー100年切手は発行されました。1300万枚の切手が全国で販売されました。デザインはポリオプラスのワクチンを飲み終わり笑顔の子供の写真です。

関西大会記念の切手では総裁に直訴して一週間後の公式発表になり、郵政130年の歴史で前代未聞の事であると言われ、更にロータリー100年切手の発行の手伝いもしました。一年の間に「ロータリー切手」の発行を二度もお手伝いする事となり、私的には貴重な体験でした。